

第5回ワンヘルス楽校開催 つながろう ひろげよう ワンヘルス



**2025年11月20日、みやま市立瀬高小学校で「第5回ワンヘルス楽校」が行われました。
小・中・高の児童生徒が「私のワンヘルス」を発表し、専門家との対話を通して、
人・動物・自然がつながるワンヘルスの理解を深めました。**

瀬高小学校の児童は、川のゴミからマイクロプラスチック問題に気づいた話や、矢部川の観察を通して学んだりサイクルの大切さ、スポーツによる健康づくり、食品ロスを減らす取り組みなど、日常生活に根ざした気づきを発表。

瀬高中学校の生徒は、四王寺県民の森での体験を通して、人と自然、生き物のつながりを実感。
森林破壊や野生動物への餌やりがこのバランスを崩すことを学び、生ごみの適切な排出や資源の分別、節電・節水など、自然を守るために自分たちができる行動を実践したいと語りました。

山門高校ワンヘルスクラブは、国内外で注目されるウナギ研究を紹介しました。
クスノキの落ち葉を使った飼育での死亡率減少や節水の成果、1377匹の放流、土壌の栄養塩調査、竹林伐採跡地を利用した「100年の森づくり」など、科学的探究と地域連携を両立した取り組みが会場を魅了しました。

子どもたちの発表からは、ワンヘルスが特別な活動ではなく、身近な生活から始められる取り組みであることが伝わり、みやま市の未来につながる力強い学びが感じられました。



子どもたちと専門家による ワンヘルス・パネルディスカッション

発表のあとは、子どもたちが日頃感じている疑問を
専門家に直接尋ねるパネルディスカッションが行われました。
小学生から高校生まで、世代を超えた素朴な質問が
飛び交い、ワンヘルスへの理解が深まる時間となりました。



パネルディスカッション パネリスト

福岡県議会議長、(公社)日本獣医師会会長
藏内 勇夫 氏

(公社)日本医師会名誉会長、社会医療法人弘恵会理事長
横倉 義武 氏

みやま市教育委員会教育長
藤岡 育代 氏

(一社)ワン・ヘルス・クリエイツ理事長
芝田 良倫 氏

株式会社クロキ(ワンヘルス宣言事業者)
黒木 千佳 氏

小学生からの質問① どうしてクマやイノシシは 人里に出てくるのですか？

【藏内会長の回答】

人が森に踏み込みすぎたことで
野生動物の生活環境が変わり、餌を求めて
人間の生活圏に近づくようになっている。
だから、**野生動物が安心して暮らせる森を
取り戻すことが、長期的に必要です。**

小学生からの質問② 新しい感染症は これからも出るのですか？

【横倉先生の回答】

ウイルスは変異を続けるため
新しい感染症は今後も起こりうると回答。
そして「**多くの感染症は動物から広がるため、
動物の健康を守ることがワンヘルスの重要な柱**」です。

小学生からの質問③ 暑い夏が続くと 野生動物は生きていけますか？

【藏内会長の回答】

気温上昇は餌不足や病気の増加につながり、
生態系に影響が出ると説明。
温暖化は、いわば「**地球が熱を出している状態**」
であり「**地球を守る行動が必要**」です。

中学生からの質問
世界ではワンヘルスが
どのように進められているのですか？

【藏内会長と横倉先生の回答】
国際的に医師会と獣医師会が
協力して取り組んでいること、
そして福岡が国際会議の
舞台になってきた歴史に触れ、
「世界との連携が欠かせない」と強調。

高校生からの質問
ワンヘルス宣言をされている
企業は、どのようにワンヘルスに
取り組んでいますか？

【黒木さんの回答】
廃棄される豚脂をスキンケア商品に再利用したり、
規格外野菜を加工品として
活かしたりする企業の事例を紹介。
環境・食品・健康がつながる、
まさにワンヘルスの実践です。

■ 横倉先生コメント

みやま市子どもたちによる発表を聞き、
その「自発性」と「発信力」の高さに
深い感銘を受けました。
先生方の指導はあるものの、
それ以上に子どもたち自身が主体的に考え、
行動している姿が印象的でした。
また、子どもたちが将来新たな価値を生み
出していく可能性に大いに期待しています。



■ 藏内会長コメント

小・中・高校生それぞれの発表を聞き、
横倉先生と同様に子どもたちの
「自主性」や「協働する姿勢」が高く評価できます。
特に、みやま市が推進する「ワンヘルス」の理念、
人・地域・動物・世界をつなぐ“絆”が、
子どもたちの取り組みの中で 実際の行動として
しっかり形になっている点に感動しました。
また、これからワンヘルスセンターが世界中の
研究者が訪れる“聖地”へと発展していくことを
心から期待しています。

